

さいたま市地域医療研究費補助事業報告書

研究題目

乳がん検診受診率向上のための方策に関する検討

研究代表者 甲斐 敏弘（新都心レディースクリニック）

共同研究者 菅又 徳孝（マンモエクスサス菅又クリニック）

蓮見 直彦（蓮見医院）

佐藤 行彦（大宮双愛病院）

高木 俊二（大宮エヴァグリーンクリニック）

湯澤 聡（みはし医院）

目次

1. 研究要旨
2. 研究方法および対象
3. 結果
4. 考察
5. 文献
6. 表・図・資料
7. その他（発表予定，備品購入の成果，等）

1. 研究要旨

本研究の目的は、乳がん検診受診率向上のための方策について検討することである。乳癌は罹患者数、死亡者数共に年々増加しており、死亡率抑制のためには乳がん検診受診率の向上は喫緊の課題である。これまで行政からの広報や報道機関、芸能関係者の体験談など種々の検診受診勧奨が行なわれており、徐々にその効果は現れてきていると思われるものの、国の掲げる検診受診率の目標 50%には未だ達していない。我々が関わっているさいたま市大宮地区の乳がん検診受診率についても 10 数%で推移している。

また、平成 21 年度から「女性特有のがん検診推進事業」として無料クーポンが配布されている。種々の受診勧奨方策の中でこの経済的支援がどの程度の効果をもたらしたかを明らかにすることも重要である。

今回、平成 23 年度乳がん検診受診者の一部を対象としてアンケート調査を行い、受療行動に結びついた要因に関する検討を行なう。併せて乳がん検診担当医師への講演会をも開催し乳がん検診の質の向上を図る。

2. 研究方法および対象

本研究においては主に以下三つの項目を実施した。

A. 平成 23 年度さいたま市大宮地区乳がん検診受診者のサンプル調査
目的：平成 23 年度乳がん検診受診者の一部を対象としてアンケート調査を行い、受診勧奨における種々の広報や経済的支援の影響の有無、その後の受療行動等について調べる。 対象：平成 23 年度乳がん検診受診者のうち 10 月、11 月に受診した者 方法： 平成 23 年 9 月に最終版を作成印刷 平成 23 年 9 月 6 日 乳がん検診施設の医師、職員を対象に実施説明会を開催 9 月中に二度にわたり乳がん検診施設職員を対象に説明文書を配布 アンケート回収は乳がん検診受診票とは別に行った。
B. 平成 21・22 年度さいたま市大宮地区乳がん検診の無料クーポン利用者の検討
目的：平成 21・22 年度さいたま市大宮地区乳がん検診受診者の検討を行う。また無料クーポン利用者のうち、特に初回検診受診者に関する検討を行なう。 対象：平成 21・22 年度乳がん検診受診者 方法： 大宮医師会検診業務課にて作成済みのデータベースを元に検討
C. 乳がん検診担当医師を対象とした講演会
目的：乳がん検診に関する外部講師による講演会を開催し、大宮医師会乳がん

検診担当医師に改めて乳がん検診の現状と問題点、注意点について最新情報を共有する。

対象：乳がん検診施設の医師

講演内容：渋川総合病院院長・横江隆夫先生

「マンモグラフィ検診の現状と問題点」

3. 結果

A 平成 23 年度さいたま市大宮地区乳がん検診受診者のサンプル調査

平成 23 年度の市民検診受診者のうち平成 23 年 10 月、11 月の二か月間の乳がん検診全受診者を対象としたアンケート調査を行った。この期間は乳がん検診としては繁忙期にあたり、この二ヶ月間は年間受診者数の約 25%にあたる受診者が見込めると予測した。

アンケート内容は受診者の回答率を下げないように考慮し 13 項目に絞り込んだ。

この期間の受診者数は 3,729 人で、このうち 3,150 人の回答を得た。回収率は 84.5%と満足すべき値であり、この期間の受診者の実態をほぼ把握できたと考えられる。

1. 受診者の年齢分布、居住地

受診者の年代は 40 歳代から 70 歳代までが中心であるが、実数をみると 50 歳代の受診者がやや少ない（図 1）。これはこれまでのさいたま市大宮地区及び浦和地区の検診結果報告からも同様の傾向にあることが報告されている（平成 23 年度埼玉県乳がん検診セミナー）。乳癌罹患率の高いこの年代の検診受診者が実数として少ないことは注意すべきである。50 歳代の受診者が職域や人間ドックなど任意型検診を受けているためか、家庭や職場環境の影響で検診を受ける機会が失われているかは現在のところ不明であるが、後者とするならば何らかの対策を検討する必要があると思われる。

受診者の居住地をみると見沼区、大宮区、北区からの受診者が多く、この三区からの受診者で約 70%を占めている（図 2）。

2. 乳がん検診受診歴

乳がん検診の受診率向上を目指すためには、初回受診者や検診に積極的ではない人達の調査が重要である。今回のアンケートでの乳がん検診受診歴については市民検診だけでなく任意型検診（職域検診や人間ドックなど）での検診歴も含めて質問した。

毎年受診者が約 60%、隔年受診者が約 13%、3～4 年に一度受診する人が約 8%、殆ど受けていない人が 7%、初回受診者約 8%であった（図 3）。

以下の検討では、毎年受診者と隔年受診者の定期受診群（約 73%）、3～4 年に一度や殆ど受けていない人の不定期受診群（約 15%）、初回受診群（約 8%）の三つの群間の比較を中心に行った。

なお、乳がん以外のがん検診について約 94%の人は他のがん検診も受ける予定であると回答している。がん検診全体の受診率の向上を考慮した場合に、それぞれの受診率を上げるような方策が相加的に影響を与える可能性があると思われる（図 4）。

3. 定期受診群と不定期受診群, 初回受診群における乳がんや乳がん検診に関する意識の違い

アンケート項目から各設問の回答を抽出し, 各群間の乳がんや乳がん検診に関する意識の違いについて検討した.

A. 乳がんに関する記事やニュース, ドラマなどへの関心 (図5)

乳がんに関する記事やニュース, ドラマなどへの関心について, 「とても関心がある」, 「関心はある」, 「どちらでもない」, 「関心はない」, 「まったく関心がない」の重みづけをつけた選択肢での設問を設定した.

定期群, 不定期群, 初回受診群とでこれらの頻度には有意に差があり ($p=1.69 \times 10^{-6}$, χ^2 乗検定), 定期群と不定期群との重みづけを考慮した比率についても有意差を認めた ($p=0.0002$, Cochran-Armitage test). 「とても関心がある」, 「関心はある」とした top2 比率について, 定期群は約 84%で不定期群は約 78%であり, 両群ではこれらへの関心の持ち方に違いがあることが分かった. また, 初回受診群は先の 2 群の中間的性格を持っている.

B. 自己検診 (図6)

乳腺の自己検診は意識を高めるうえで重要であるが, 自己検診の頻度について各群間で比較すると, 各群間には 1%以下の有意差 ($p=9.7 \times 10^{-13}$, χ^2 乗検定) がみられた. 定期受診群では「月に一度」, 或いは「2~3月に一度」行っている人の比率が高く, 不定期受診群では「めったにしない」, 或いは「したことがない」人の比率が高かった. また, 初回受診群においては不定期受診群と類似した比率を示し, なおかつ「したことがない」と答えた人が 21%も認めたことは注目すべきである.

初回受診者は自己検診の意義や方法についての理解が乏しい人が多いことが特徴であるといえる. その受診者が将来にわたり乳がん検診や乳がん早期発見に対して前向きな姿勢を維持することができるかは, この初回検診受診時に自己検診についてきちんと理解させることが必要だと思われる.

C. 乳がん発症の可能性についての意識 (図7)

自分自身が乳がんにかかる可能性についてどう感じているかについて, 「かなり高い」, 「ある」, 「どちらでもない」, 「あまりない」, 「ない」の 5 段階の設問を設定した.

乳がんの可能性について重みづけを考慮して各群間で比較すると定期群と不定期群とでは有意差を認めた ($p=0.0091$, Cochran-Armitage test). 定期群では自身が乳がんにかかる「可能性がある」と考えている人の比率が高く, 不定期群では「可能性があまりない」と考えている人の比率が高いことが明らかになった. また, 初回受診群はそれぞれの中間の傾向を示している.

D. なぜこれまで乳がん検診を受けなかったのか (図8, 表1)

検診を受けていない人に対してその理由を調べるための方法は現実には無いために, 今回は「初めて乳がん検診を受けた時のこと」を想起してもらい「それまで, なぜ検診を受

けなかった」のかとの設問を設定した。その理由として 12 項目を設定し 3 つまでの複数回答形式の設問とした。

その理由として回答が多かったのは「何も症状がなかったから (1,063 件)」、「何となくおっくうだった (994 件)」、「40 歳になっていなかった (953 件)」、「忙しくてタイミングをのがした (685 件)」の四項目がかなり多くを占めた。

40 歳という年齢要因は対策型検診においては容認できる理由ともいえるが、そのほかの「症状がなかったから」、「何となくおっくう」、「忙しくてタイミングをのがした」に多くの回答が重なったことは注目すべきである。

定期受診群と不定期受診群とでこの四項目について頻度の差をみると、定期受診群では「年齢」を理由とした頻度が高く、不定期群では「多忙」、「おっくう」、「症状がないから」を理由とした頻度が高かった。この両群間の差は統計学的に有意 ($p=2.41 \times 10^{-20}$, χ^2 乗検定) で、特徴的な違いといえる。

特に「症状がなかったから」検診を受診しなかったという点は早期発見を目的とした検診そのものの意義を一般の人、特に不定期群には理解されていなかったことになる。

E. 不定期群が今回受診した契機 (表 2)

今回の検診受診の契機について 8 項目を設定し 3 つまでの複数回答形式の設問を行った。この設問についても主たる回答項目であった「友人の誘い」、「市からの案内」、「雑誌テレビ」、「身近で乳がん」、「症状がある」、「既往がある」の 6 項目について定期群と不定期群とで比較すると有意に違いがあった ($p=3.53 \times 10^{-8}$, χ^2 乗検定)。

不定期群では「友人」、「市からの案内」、「雑誌テレビ」、「症状」がきっかけとなって受診していることが分かった。

不定期群の乳がん検診に関する受診動態としては「多忙」、「おっくう」、「症状がないから」これまで受診していなかったが、「友人からの誘い」、「市からの案内」、「雑誌テレビの情報」、「症状があった」ことが契機となって今回受診したとも考えられる。

F. 次回の検診は受けるのか? (図 9)

アンケートの最後の設問として次回の乳がん検診を受けるか否かの設問を行った。「必ず受ける」、「たぶん受ける」、「わからない」、「たぶん受けない」、「必ず受けない」の 5 者択一とした。

「必ず受ける」、「たぶん受ける」と答えた人達の頻度は定期受診群は約 99%、不定期受診群では約 84%、初回受診群では約 76%であった。これまで不定期にしか受診していなかった人達の多くが定期的に受診するきっかけになったとも考えられるが、一方で初回受診群が少し低かった点をどう解釈すればいいのか悩むところである。

4. 受診者アンケート結果まとめ

今回の受診者アンケートでは定期的に検診をうけている定期群とそうでない不定期群との間で乳がんに対する態度の差が明らかになった。

定期群は自身も乳がん罹患しうるとの意識があることから乳がん関連の情報にも関心

が高く、自己検診も熱心である。一方、不定期群はこれらの意識が乏しいことが明らかになった。また、初回受診群はこの両群の中間的性格があることが分かった。

乳がん検診受診率の上昇のためには、初回受診者数が毎年維持されることと共に不定期群、初回受診群が将来定期受診群として検診を受け続けることが必要である。

不定期群については、これまで「多忙」、「おっくう」、「症状がない」から検診を受診していなかったが、「友人からの誘い」、「市からの案内」、「雑誌テレビの情報」、「症状があった」ことが契機となって今回受診したとも考えられる。雑誌やテレビなどの情報については個々に対応することは難しいが、さいたま市からの案内が重要であり、特に症状がない人達に乳がんが見つかる事実をこの中で伝える必要があると思われる。

また、今回のアンケートでは不定期受診群の 84%が次回も受診すると答えており、検診受診時に適切な乳がん情報や自己検診方法などを周知する機会として利用することも行うべきだと思われる。

B	平成 21・22 年度さいたま市大宮地区乳がん検診の無料クーポン利用者の検討
----------	---

さいたま市大宮地区乳がん検診の過去 3 年間の現状は、受診率 13%前後、要精検率 5%前後、癌発見率 0.2%前後で推移している（表 3）。陽性反応的中度はばらつきがあるものの過去二年間は 6.5%を超えており、質的には一定の水準を満たしている。

検診受診率を上げるために無料化などの経済的支援を行うことは一つの有効な方法と考えられる。わが国では平成 21 年度から「女性特有のがん検診推進事業」として該当年齢女性に対する無料クーポンが導入された。この無料クーポン政策がどのような効果があったかについて検証する必要がある。

我々はその初年度にあたる平成 21 年度の無料クーポンの効果について日本乳癌検診学会¹⁾、埼玉県医学会雑誌にて報告した²⁾。年齢別検診受診者数を見ても該当年齢で突出しており、受診者数の増加に一定の効果が見られた（図 10）。また、特に検診受診歴の無かった初回受診者の比率が有意に高かった（ $p<0.01$ ）。

今回、二年目にあたる平成 22 年について調べると、初めて検診を受けた人の比率は有意差をもって高く（ $p=3.65 \times 10^{-57}$, χ^2 乗検定）（図 11）、平成 21 年度とほぼ同様の効果が見られた。また、要精検と判定された人の割合も無料クーポン利用群で有意に高かった（ $p=0.008$, χ^2 乗検定）。

無料クーポンが各該当年齢にあたる人達の受診勧奨に一定の効果をあげ、特に検診未体験者を受診させるうえで効果があったことは明らかである。しかしながら、乳癌早期発見と乳癌死亡率低下を目的とするならば、この無料クーポンで初めて検診を受けた人達がその後如何なる受診行動をとり続けるかが最も重要だと思われる。

ここで平成 20 年度から 22 年度までの年齢別受診者数を重ねてみると、驚くほど受診者数の山が一致する（図 12）。これは無料クーポン効果で該当年齢受診者数が増加したものの

翌年への持越し効果が得られなかったことを示している。平成 21 年度に無料クーポン該当年齢であった人達の前後三年間の受診者数の推移を見ると該当年度以外の受診者数が驚くほど一致していることが分かる（図 13）。

勿論、平成 21 年度に初めて乳がん検診を受診した人達の個々の追跡調査は許されていないために、現状ではこの程度の推定しかなし得ないが、過去二年間の受診者数の推移を見る限りは無料クーポンは単年度の効果しか持ちえない可能性がある。平成 21 年度の初回受診者が二年後の平成 23 年度に受診したのか否かについても同様である。

これらのさらなる詳細な検討と費用対効果については行政の立場での調査が期待される。

C 乳がん検診担当医師を対象とした講演会

平成 23 年 11 月 24 日（木）ラフォーレ清水園において外部講師として渋川総合病院病院長・横江隆夫先生（日本乳癌検診学会理事，第 24 回日本乳癌検診学会会長）を招き講演会を開催した。参加者は乳がん検診を担当する医師，職員の 35 名。

講演タイトルは「マンモグラフィ検診の現状と問題点」で①MMG 検診が始まった経緯，②日本と世界の MMG 検診状況，③USPSTF の提言と MMG 検診の功罪，④MMG 単独検診と検診受診率向上にむけての内容であった。

参加医師への啓発に大きく貢献したものと思われる。

4. 考察

今回の受診者アンケートでは定期的に検診をうけている定期群とそうでない不定期群との間で乳がんに対する態度の差が明らかになった。乳がん検診受診率の上昇のためには、初回受診者数が毎年維持されることと共に不定期群，初回受診群が将来定期受診群として検診を受け続けることが必要である。定期群と不定期群の違いの一つは自分が乳がん罹患者になるか否かの認識に差があることにある。乳癌は今後も増加し続けることは間違いのないことであり、誰でも罹患する可能性があることを知ってもらう必要がある。

また、今回のアンケートで驚いた点として、検診を受診しなかった理由として「症状がなかったから」を理由に挙げた人が大変多かった点である。がん検診そのものの意義を一般の人、特に不定期群には理解されていなかったことになる。

不定期群は、「友人からの誘い」、「市からの案内」、「雑誌テレビの情報」、「症状があった」ことが契機となって今回受診したとも考えられる。さいたま市からの案内がやはり重要な役割を果たしたことが明らかであり、特に症状がない人達に乳がんが見つまっている事実をこの中で伝える必要があると思われる。

今回のアンケートでは不定期受診群の 84%が次回も受診すると答えており、検診受診時に適切な乳がん情報や自己検診方法などを周知する機会として利用することも行うべきだと思われる。

無料クーポンについては残念ながらこれまでの検討では単年度の効果しか得られていな

い可能性がある。

検診受診率の向上に経済的支援は一定の効果があることは予想されるが、やはり地道な広報活動が最も重要だと思われる。さいたま市からの広報、がん検診の案内、また、検診受診時や結果説明時のハンドアウトなど特に不定期群、初回受診群を中心とした活動が望まれる。

5. 文献

1)甲斐敏弘，菅又徳孝，蓮見直彦他：無料クーポンの検診初回受診に関する効果の検討～平成 21 年度さいたま市大宮地区乳がん検診結果～ 第 20 回日本乳癌検診学会総会．平成 22 年 11 月 20 日．福岡市．

2)甲斐敏弘，菅又徳孝，山田公雄他：無料クーポンの乳がん検診初回受診に関する効果の検討～平成 21 年度さいたま市大宮地区乳がん検診結果～．埼玉県医学会雑誌．第 46 巻 2 号．358-362, 2012.

6. さいたま市地域医療研究費補助事業報告書 (図, 表)

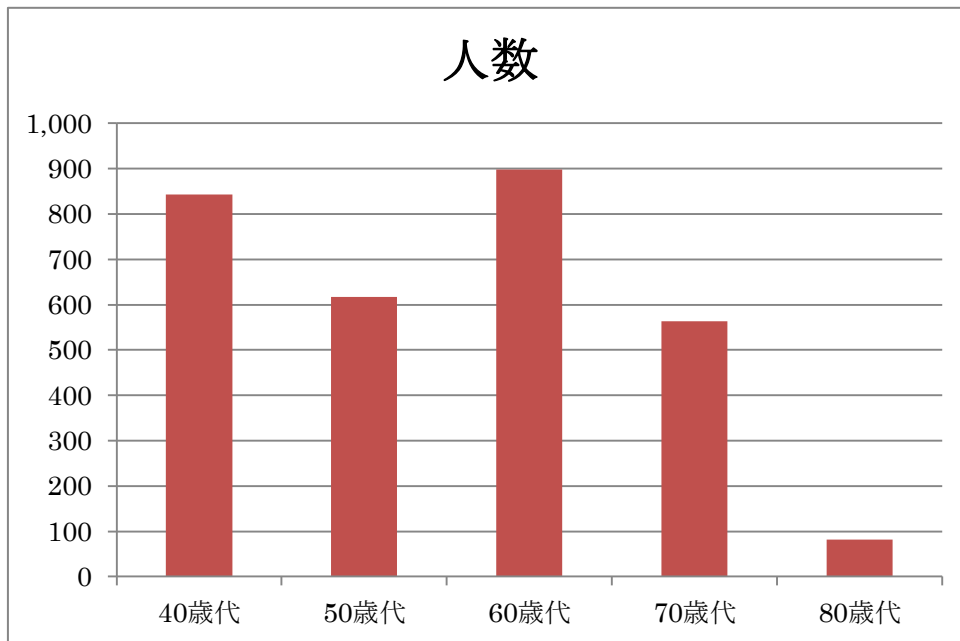


図1. 受診者年代分布

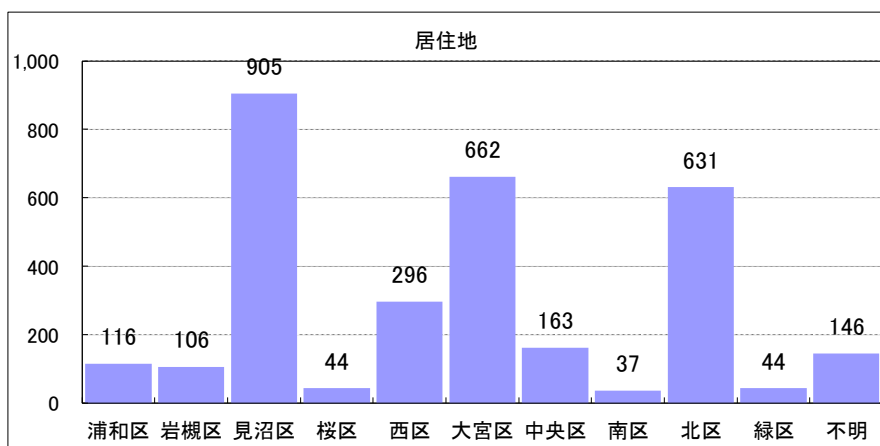


図2. 居住地

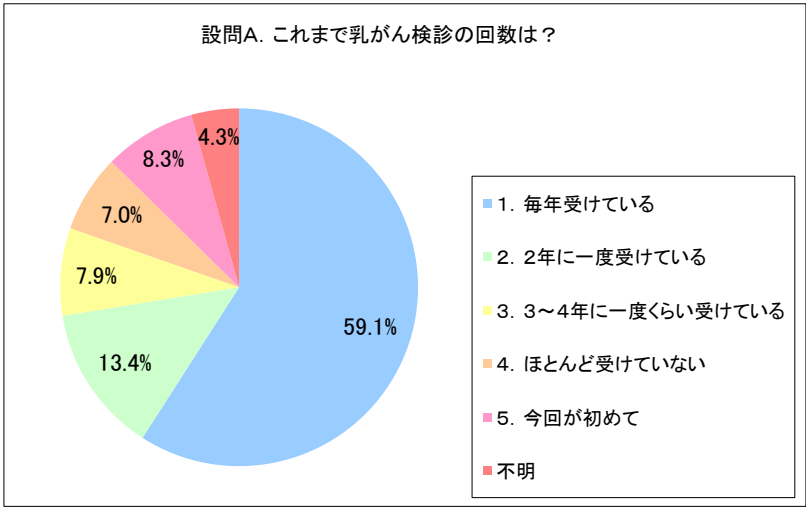


図3. 乳がん検診受診歴

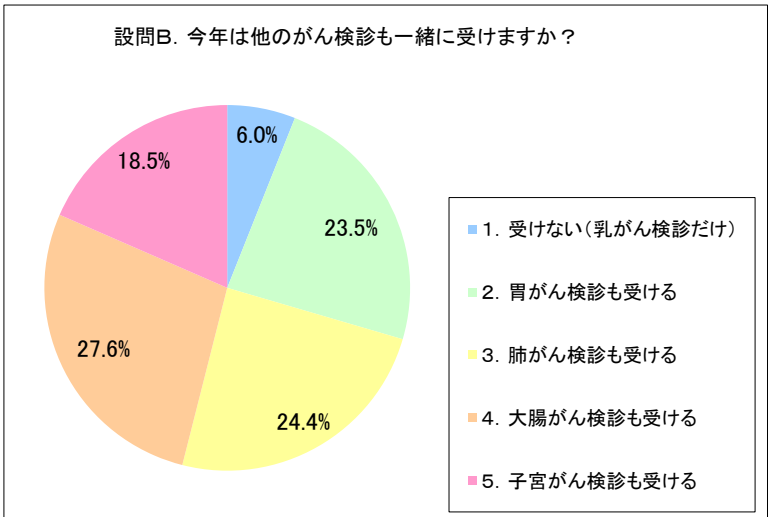


図4. その他のがん検診受診

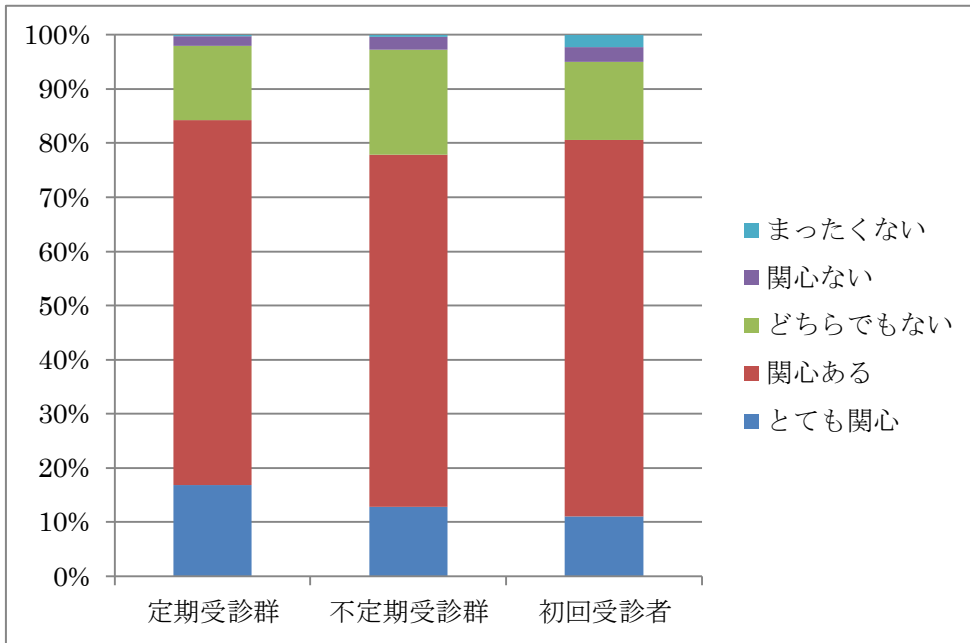


図5. 乳がん関連の記事やニュース、ドラマなどへの関心

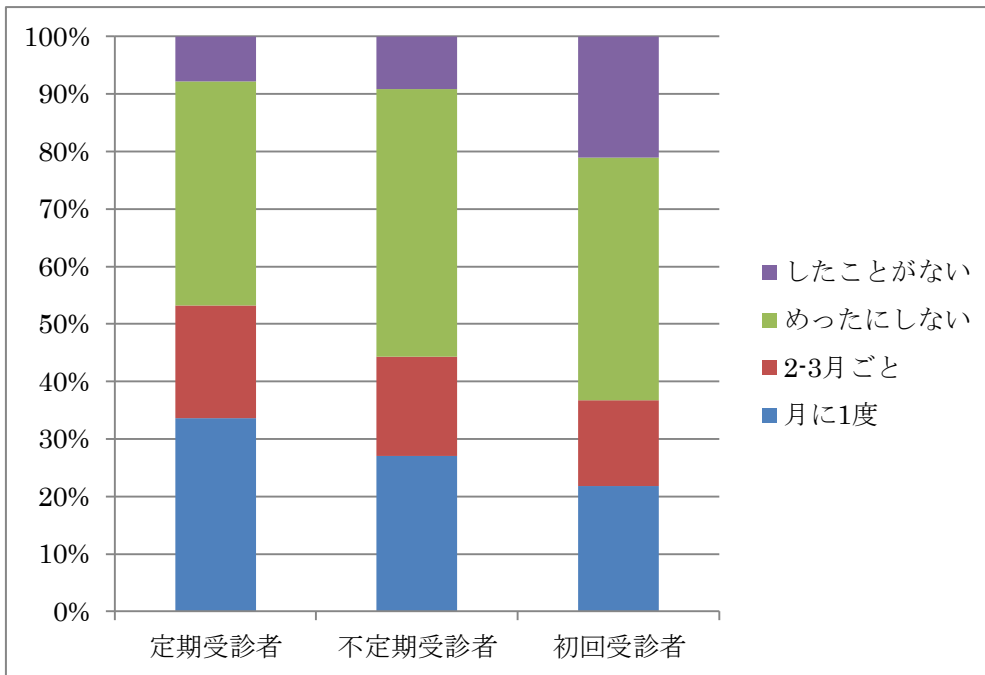


図6. 各群と自己検診の頻度

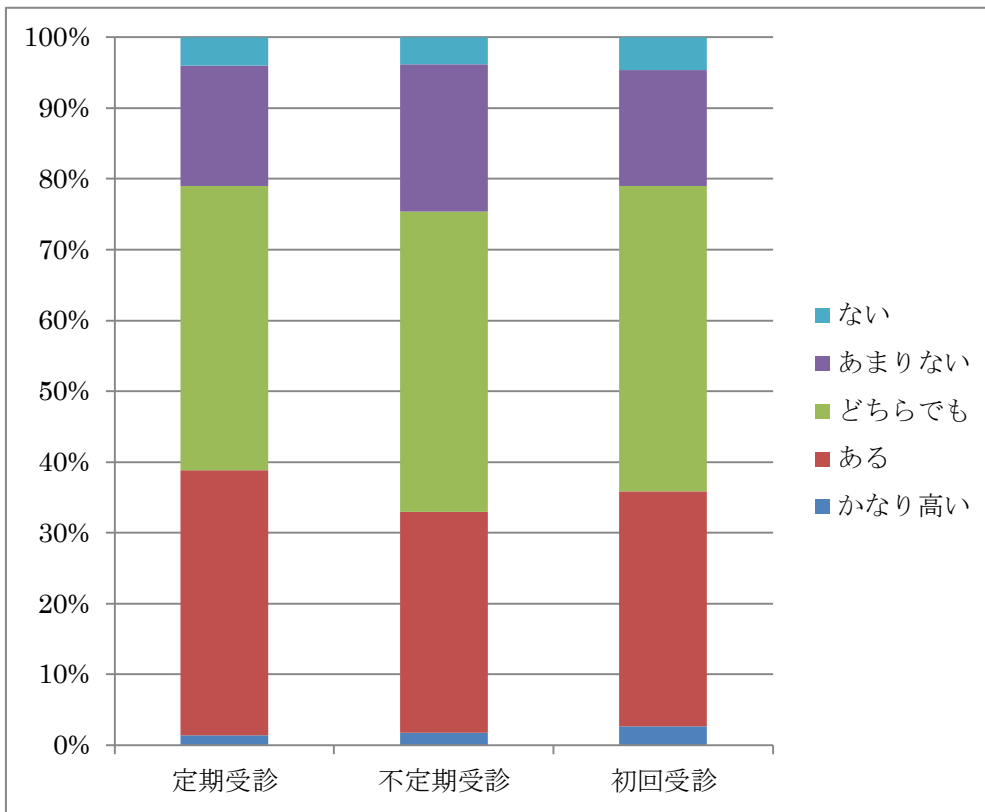


図7. 各群と自身が乳がん罹患する可能性

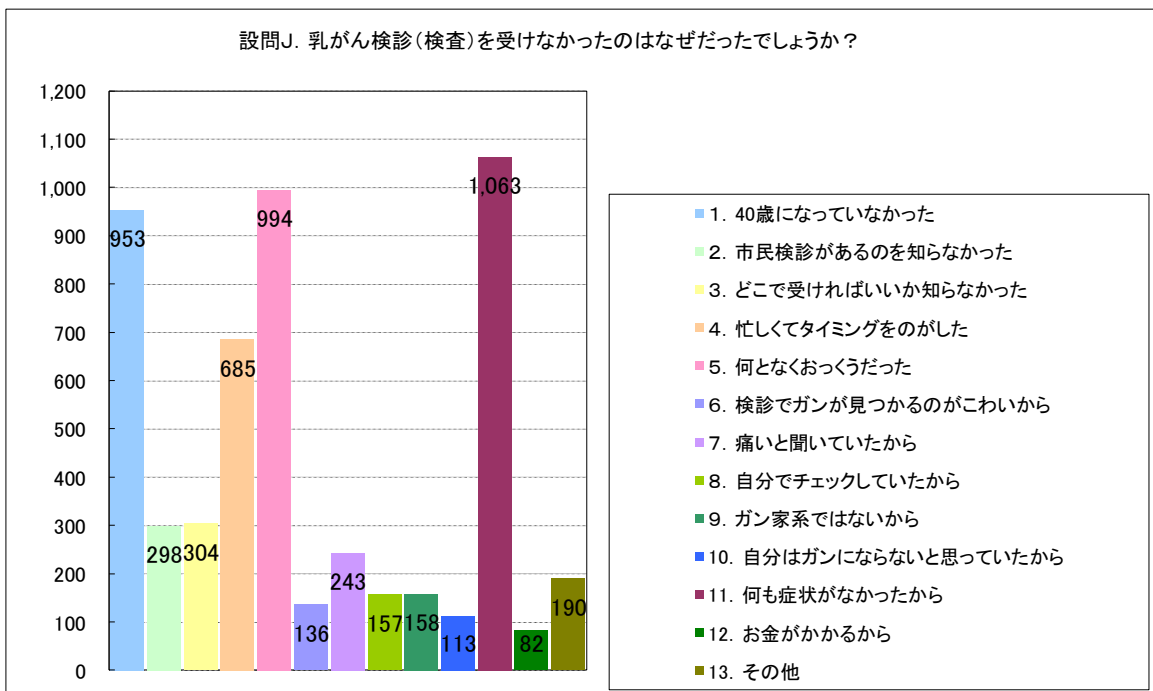


図8. なぜ検診を受けなかったのか

表1. 定期受診群と不定期受診群の「検診を受けなかった理由」(p=2.41xE-20)

理由	定期受診群		不定期受診群	
		%		%
年齢	800	20.7%	93	9.8%
多忙	413	10.7%	171	18.0%
おっくう	657	17.0%	221	23.3%
症状ないから	729	18.9%	212	22.3%
合計	3860	100%	949	100%

表2. 定期受診群と不定期受診群の「今回受けた契機」(p=3.53xE-8)

主たる契機	定期受診群		不定期受診群	
		%		%
友人	97	5.1%	55	9.4%
市案内	1039	54.1%	300	51.1%
雑誌テレビ	173	9.0%	73	12.4%
身近で癌	416	21.7%	100	17.0%
症状	67	3.5%	39	6.6%
既往	127	6.6%	20	3.4%
合計	1919	100%	587	100%

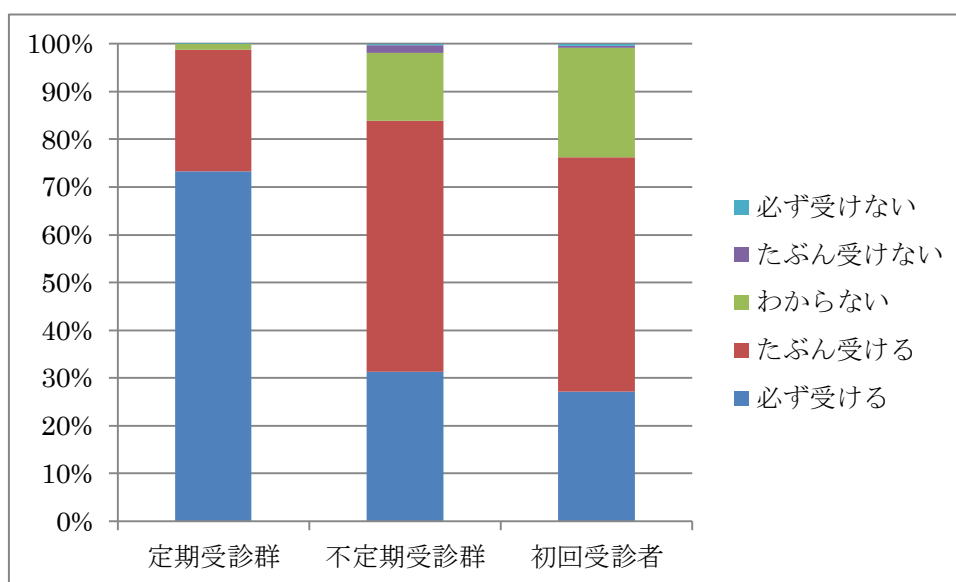


図9. 次回の検診は受けますか？

表3. さいたま市大宮地区乳がん検診受診率

	H20 年度	H21 年度	H22 年度
対象者	103,748	105,965	108,339
受診者	13,164	14,857	14,887
受診率 (%)	12.7	14.0	13.7
要精検率	6.4	5.3	4.2
癌発見数	25	42	31
癌発見率 (対受診者)	0.19	0.28	0.21
癌発見率 (対MMG)	0.28	0.37	0.26
陽性反応の中度	3.8	6.5	6.8

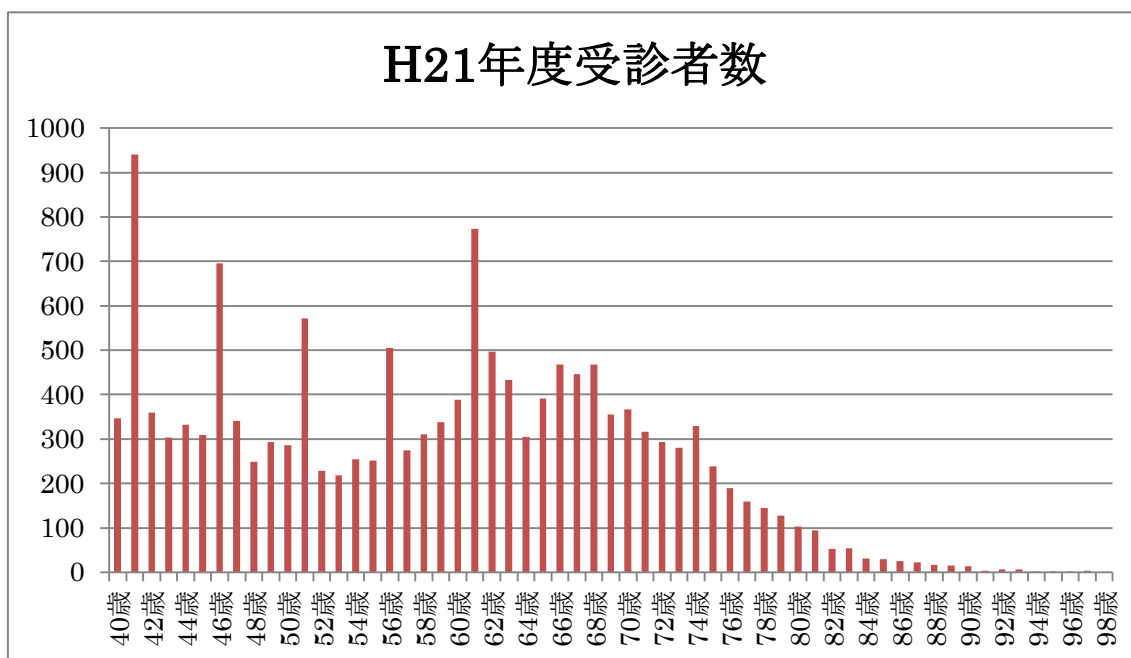


図 10. 平成 21 年度年齢別受診者数

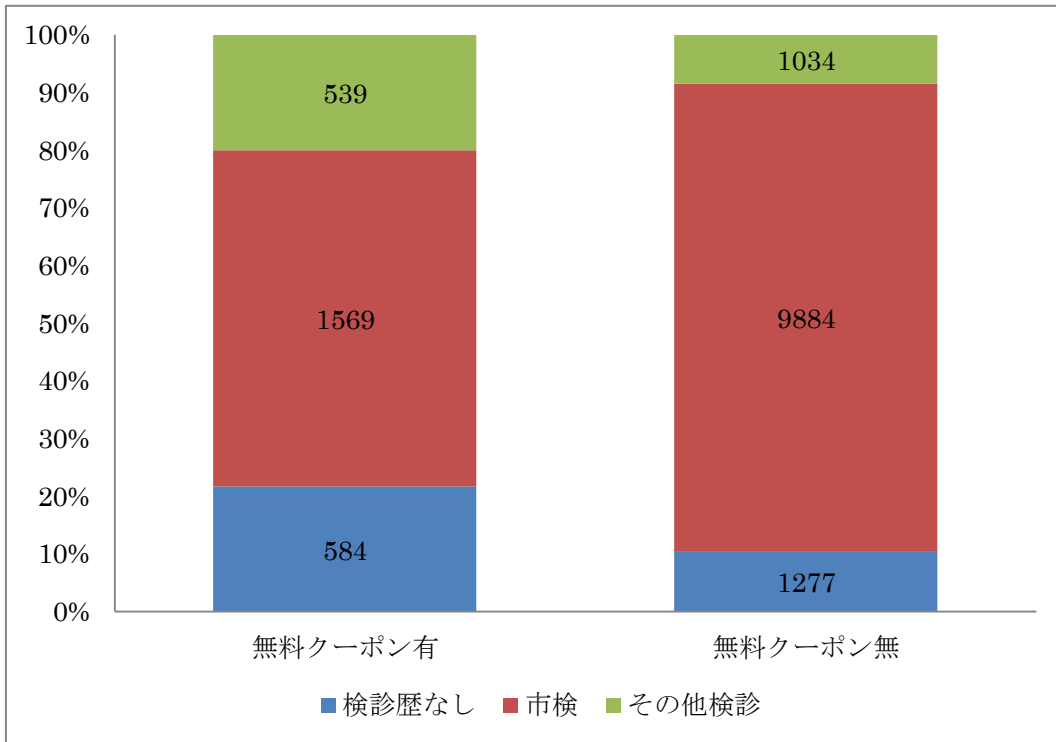


図 11. 平成 22 年度無料クーポンの有無と検診受診歴

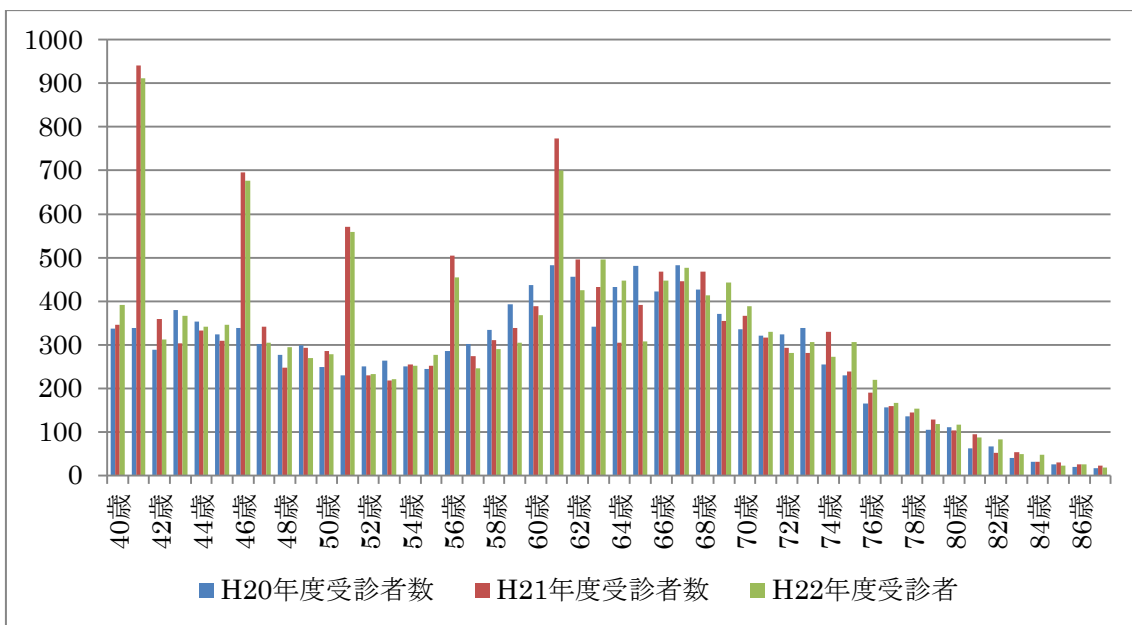


図 12. 平成 20, 21, 22 年度年齢別受診者数

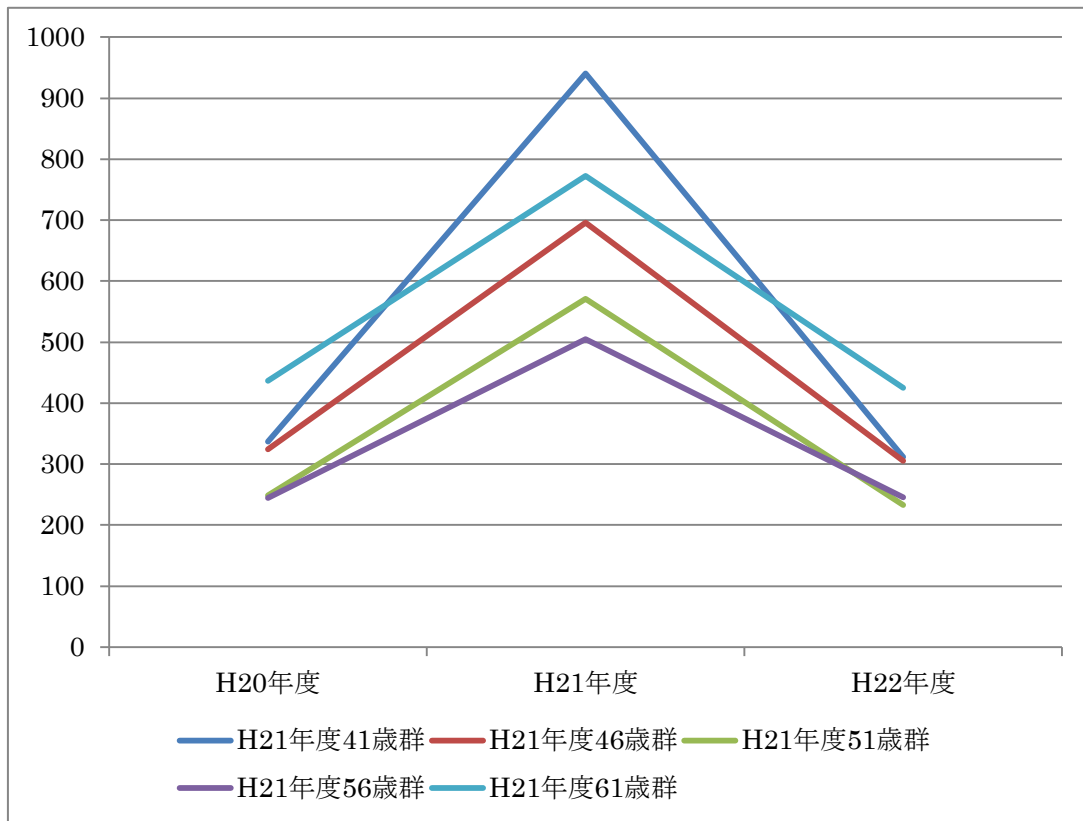


図 13. 平成 21 年度に無料クーポン該当年齢であった群の前後三年間の受診者数の推移

添付資料

乳がん検診受診者アンケート

大宮医師会
大宮医師会乳がん検診委員会

さいたま市乳がん検診を受診していただきありがとうございます。このアンケートは、乳がん検診受診率の向上のために調べるためのものです。

結果の解析は個人情報をも特定できない方法で行ない、全体の結果をさいたま市や学会への報告させていただくこともあります。どうかご協力をお願い申し上げます。

アンケート用紙の回収は受診施設の指示に従ってください。

『乳がん検診受診票（黄色い用紙）』と同時でなくても構いません。

答え方の例（番号を○で囲みます）

今朝の朝食は？ (1つを○で囲む)	1. ご飯 ②. パン ← 今朝パンを食べたので 3. 食べていない
好きなテレビ番組は？ (3つまで○で囲む)	1. サザエさん 2. 鉄腕ダッシュ 3. 世界遺産の旅 ④. マルモのおきて ⑤. 仁 6. ない ↑ ここでは二つを○で選択

A

<p>これまで乳がん検診の回数は？ (職場検診やドックも含めて) (1つを○で囲む)</p>	<p>1. 毎年受けている 2. 2年に一度受けている 3. 3～4年に一度くらい受けている 4. ほとんど受けていない 5. 今回が初めて</p>
--	--

B

<p>今年は他のがん検診も一緒に受けますか？ (4つまで○で囲む)</p>	<p>1. 受けない (乳がん検診だけ) 2. 胃がん検診も受ける 3. 肺がん検診も受ける 4. 大腸がん検診も受ける 5. 子宮がん検診も受ける</p>
---	--

C

<p>今まで乳房超音波検査 (エコー検査) を受けたことがありますか？ (1つを○で囲む)</p>	<p>1. 受けたことがない 2. 1年前 3. 2年前 4. 3年以上前 5. わからない</p>
---	--

D

<p>ときどき自己検診 (自分で乳房を触ってみること) をしていますか？ (1つを○で囲む)</p>	<p>1. 月に1度くらい 2. 2～3月に1度くらい 3. めったにしない 4. したことがない</p>
--	---

E

<p>乳がん関連の記事やニュース、ドラマなどに関心がありますか？ (1つを○で囲む)</p>	<p>1. とても関心がある 2. 関心はある 3. どちらでもない 4. 関心はない 5. まったく関心がない</p>
--	--

F

<p>自分は乳がんにかかる可能性があるといますか？ (1つを○で囲む)</p>	<p>1. 可能性はかなり高い 2. 可能性はある 3. どちらでもない 4. 可能性はあまりない 5. 可能性はない</p>
---	---

G

<p>マンモグラフィは乳がんの早</p>	<p>1. とても役に立つ</p>
----------------------	-------------------

<p>期発見に役に立つと思いますか？ (1つを○で囲む)</p>	<p>2. 役に立つ 3. どちらとも言えない 4. あまり役に立たない 5. 役に立たない</p>
--------------------------------------	--

H

<p>乳腺超音波検査は乳がんの早期発見に役に立つと思いますか？ (1つを○で囲む)</p>	<p>1. とても役に立つ 2. 役に立つ 3. どちらとも言えない 4. あまり役に立たない 5. 役に立たない</p>
---	---

I

<p>今回、乳がん検診を受けるきっかけは何でしたか？ (3つまで○で囲む)</p>	<p>1. 検診年齢になったから 2. 友人・知人に誘われたから 3. いつも受けているから 4. さいたま市から案内がきたから 5. 雑誌やテレビの報道を見て 6. 身近な人で乳がんになった人がいるから 7. 気になる症状があるから 8. 乳腺の病気になったことがあるから 9. その他</p>
---	--

J

<p>あなたが初めて検診を受けた時のことを思い出してください それまで乳がん検診(検査)を受けなかったのはなぜだったでしょうか？ (3つまで○で囲む)</p>	<p>1. 40歳になっていなかった 2. 市民検診があるのを知らなかった 3. どこで受ければいいのか知らなかった 4. 忙しくてタイミングをのがした 5. 何となくおっくうだった 6. 検診でガンが見つかるのがこわいから 7. 痛いと聞いていたから 8. 自分でチェックしていたから 9. ガン家系ではないから 10. 自分はガンにならないと思っていたから 11. 何も症状がなかったから 12. お金がかかるから 13. その他</p>
--	---

K

<p>あなたが市民検診(乳がん検</p>	<p>1. 費用が安いこと</p>
----------------------	-------------------

診) に最も求めるものは何ですか？ (1つを○で囲む)	2. 家の近くで受けられること 3. 待ち時間などが短いこと 4. 確実な診断ができること 5. 他の検診も一緒に受けられること
--------------------------------	---

L

乳がん検診の費用(負担額)はどれくらいが望ましいと思いますか？ (1つを○で囲む)	1. 五百円 2. 千円 3. 二千元 4. 三千元以上
--	--

M

次回の乳がん検診はどうしますか？ (1つを○で囲む)	1. 必ず受ける 2. たぶん受ける 3. わからない 4. たぶん受けない 5. 必ず受けない
-------------------------------	--

ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙の回収は受診施設の指示に従ってください。

『乳がん検診受診票(黄色い用紙)』と同時でなくても構いません。
